



文化財級の銘木を使った門扉

多摩川中流域の畑地のそばに建てられた新築の家。東京都内では珍しい平屋で50坪の戸建住宅である。設計は、**Y2設計(株)**の建築士・小俣容子氏。同物件の設計を手がけることになったきっかけを尋ねたところ、お施主さんは10年以上前に通っていた職業訓練校の恩師。毎年欠かさず近況を伝えていた年賀はがきが縁をつないだという。

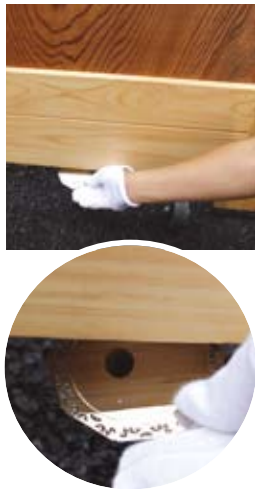
定年を迎えたご夫婦の3人家族の住まい。近所に和風の素敵なお家がなかったことから和風の家が希望だった。表千家茶人で着物着付け師範の経歴をもつ小俣氏は、敷地を見て平屋の敷居屋造がふさわしいと思いついた。数奇屋風のデザイン、自然光を採り入れた開放的な間取り、先々のバリアフリーにも配慮した設計を説明し計画がまとまった。リビングとつながった和室は水屋付きの表千家の

茶室。奥さんは新しい家に友人を招くのが楽しみだという。

設計では夏場の通風の良さ、自然(庭)との一体感を重視している。

屋根は、いぶし銀の三州瓦で葺いた入母屋屋根。平屋でありながら、屋根が大きく感じられないのは、下屋をもうけているため。下屋はいぶし金の鋼板葺き。勾配を主屋根より緩やかにすることで軒先に軽快さが現れている。

うづくりの秋田杉赤味。外面には木目荒々しさをあらわし(左写真)内面には穏やかな木目を現しにした(上写真) 製造は**守谷建具**(埼玉県)



下柵を鏡でのぞく 傷みやすいので排水穴を空けている